

# 2-1

地域ネットワーク

ケアマネジャー支援

関わりが難しい独居高齢者を、地域で協働し支える

「デイに通って、家で生活をしたい!」を実現するまで

地域包括 上馬あんしんすこやかセンター

発表者：社会福祉士 黒崎まいこ	フレンズ介護保険サービス ケアマネジャー赤理 文子
所在地：世田谷区上馬 4-36-9 デイ・ホーム上馬内	
TEL：03-5430-8059	E-mail：k-ansuko@n-friends.or.jp
FAX：03-5430-8085	URL：www.n-friends.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	人口約83万、高齢化率18.3%の世田谷区では、各まちづくり出張所管内に1ヶ所、計27ヶ所の「あんしんすこやかセンター」（地域包括支援センター）を設置。当センターは社会福祉法人日本フレンズ奉仕団が委託を受け運営をしています。
----------------------------	--

## 〈取り組んだ課題〉

- 一人暮らしの高齢者。地域包括で対応を開始した当初から介護保険サービスを始めとする介入を拒否していた。
- ゴミが多く衛生面、安全面を確保できない生活環境、食事の不十分さ、過度の興奮や被害妄想が見られ、対応するためのサービスが導入できていない。
- 親族も関わることに限界を感じ、役割を回避する傾向にあった。
- 以上の状況からケアマネジャーも支援の方向性が見出せず、また地域住民においても見守りや関わりに限界を感じ行き詰り、それぞれがネットワークを作り、連携をする事も困難な状況であった。

## 〈具体的な取り組み〉

- 介入を拒みながらも必要時にはSOSを出してくる本人への対応を通して、信頼関係を構築していく。
- 自宅での小火事→入院をきっかけに、区の地域担当職員、ケアマネジャー、地域包括、で支援の方向性を再確認した。
- 「自宅でデイサービスに通いながら生活をしたい」という本人の意向を尊重し、自宅復帰に向けた環境整備を行っていく。
- ケアマネジャーを中心としながら、それぞれの機関が担う事、また地域住民が対応できることといった各々の役割分担を再構築した。

なお、倫理的配慮に関しては、事例において個人や関係者が特定されないように配慮している。

## 〈活動の成果と評価〉

- 区の介護指導員と介護保険のヘルパーと一緒にすることでニーズが見極められ、継続的な信頼関係の構築が可能となった。また、危険の少ない環境整備につながった。
- デイホームで入浴、食事、服薬を行う事で体調管理が確実となった。また本人からの相談（不安な事や心配事）をそのままにせず、ケアマネに報告し一緒に考え、必要な資源をオンタイムで巻き込める体制を作る事ができている。
- ゴミ出しや連絡手段の確保など、近隣から出来る範囲での協力を得られるようになった。困りごとは民生委員経由で地域包括やケアマネがキャッチし、誰かに偏って、支援が過重にならないよう連携を取れるようになった。
- それぞれの機関や住民が、地域での本人の関わりや連携を通して、本人像を多面的に捉えられるようになった。「対応に困る人」という見方でなく、地域での生活を継続していこうと主体的に取り組んでいる人という見方に変化してきている。

## 〈今後の課題〉

- 本事例のような、関わりが難しい独居高齢者の支援をはじめ、認知症、孤立死といった地域の課題に対して、それぞれの地域機関や住民のネットワーク、連携が生きて機能する関係を育てていくこと。

## 〈参考資料など〉

## 【メモ欄】